

# サステナビリティ推進状況・推進体制

オリックスの事業は多様であり、各事業が社会に影響を与える、または各事業が社会から影響を受けるサステナビリティ課題も多岐にわたります。そのため、サステナビリティ課題へのアプローチは、「コーポレート(全社)レベル」と「事業部門レベル」の2つに分けて行っています。サステナビリティ委員会では最近の取り組み状況について討議・報告を行い、その内容を定期的に取り締役会へ報告し、承認されています。

## 取り組み状況

### 1 全社テーマについて

#### (1) 2025年3月期の実績

- ① サプライチェーン管理体制の強化：オリックス自動車、オリックス・レンテック、不動産セグメントで実施した事項、それに伴う第三者評価の改善について。
- ② 開示規制対応の準備：GHG算定業務の早期化と開示統制プロセスへの組み込みについて。

#### (2) 2026年3月期の注力テーマ

- ① 「ESG関連の重要目標」「重要課題」の更新：2030年目標を設定している事項は順調に進捗。オリックスの長期ビジョンや近く導入されるSSBJ基準を踏まえた、目標ならびに課題の更新を行う。
- ② スcope2排出量の削減：主たる排出拠点毎に削減計画を策定し、段階的に削減を実施する。
- ③ ESG格付の維持・向上：他社比較を踏まえ、引き続き、5つのESG格付の維持・向上を図る。

→ [P.37～39 ESG関連の重要目標の進捗](#)  
→ [P.44 サプライチェーンマネジメントへの取り組み](#)  
📄 [ESG評価機関による評価](#)

### 2 各事業部門の取り組み方針およびKPIについて

2025年3月期の主な取り組み

- ・リース事業における次世代車両(\*)比率が向上。自社使用電力のグリーン化を実施。サプライヤー行動指針の制定。(自動車)
- ・2回目となるサプライヤーへのアンケート調査実施。CSR調達ガイドラインおよび解説書を策定し、主要サプライヤーに公開。(レンテック)
- ・保有不動産の省エネ設備の更新前倒し、電力の再エネ化実施。食品廃棄物のリサイクル推進継続。(不動産)
- ・石炭・バイオマス混焼発電所のバイオマス専焼化に向けた定量検証を実施。(環境エネルギー)
- ・サステナブルファイナンスの実行。(銀行)
- ・次世代燃料船\*の新造発注。(船舶)

\* ハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)  
\* メタノール/重油のDual Fuel 船

#### 2026年3月期以降の各事業部門の取り組み方針

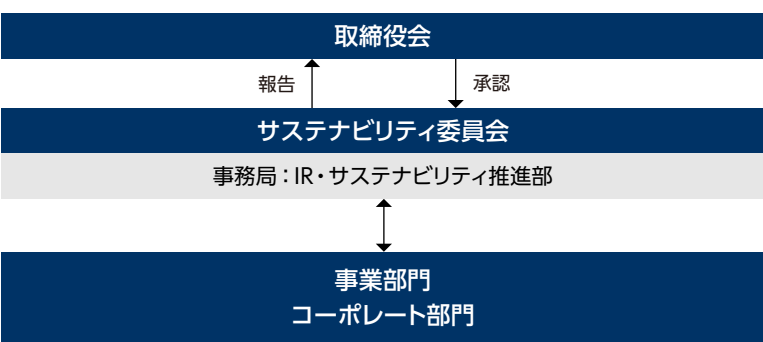
→ [P.66～79 各事業部門のサステナビリティへの取り組み方針](#)

#### 各事業部門のサステナビリティへの取り組み事例

📄 [事業活動を通じた社会課題への貢献](#)

## サステナビリティ推進体制

### ■ サステナビリティ推進体制図



取締役会は、サステナビリティ推進を監督・指導する。

サステナビリティ委員会は、ESG 関連の重要課題および重要目標を全社横断的に実行する。実行戦略・KPI・活動手順を策定し、取締役会に報告および承認を得る。  
メンバー：グループCEO(委員長)、グループCOO、執行役副社長、コーポレート部門統括役員、そのほかグループCEOが指名する執行役等。議案の内容に応じてその他の関係者も出席。

### サステナビリティ委員会の役割

- ① 目標の達成に向けた具体策に関する討議
- ② 短期的な利益成長・長期的な成長と付随するコンフリクトに関する討議
- ③ 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)において要求される気候変動リスク低減に向けた討議
- ④ サステナビリティを取り巻く国内外の情勢に関する情報共有
- ⑤ 取締役会への報告事項に関する討議

📄 [サステナビリティ課題へのアプローチ](#)